## 勝手にコーヒーブレイク　79

**「なぜ私の字はこんなに汚いのか？」**

表紙カバーの文字に思わず「そや、そや」と言いたくなる。私、字が汚いというほどではないが、ヘタはヘタである。お習字歴が長い私がいうのだから、真実である。お習字ができるなら、字は上手のはず！にはならぬ。筆を持って、横のお手本を見ながら書くのはそこそこできる。精進していなくても、なんせ、15年も習ってるんですから。肩書だけで実力なしだが、長く続けて、昇級課題も提出していたら名前だけの師範にもなれた。

問題は硬筆。仕事場の日誌、簡単な手書き葉書、各種申込書や書類に書く字が我ながらどうしようもない。自分の名前や住所もゆがんでバラバラ。上手ではないが、それなりに揃って味のある字というのがあるが、私の場合はただヘタなだけ。ヘタうまの領域にも入らない。軽い側弯症のせいなのか、縦書きの字がだんだんと右側に寄ってきて、まっすぐに書けず、斜めに曲がってくる。

今では、夫はおろか、娘や息子、はては孫のほうが？なんぼか揃った字が書ける。めちゃくちゃゆっくり書けば、私もかなりマシには書けるが、ものすごく気合と根性が要る。そんなことなら、パソコンを起動して、プリンターで印字するほうがうんとストレスがない。自分がこんなだから、手書きの手紙や葉書は暖かくて心がこもっていていいね、なんて全く思わない。

**『もともとヘタな字が、何でもパソコンで打つようになってから手書きの機会が激変し、手が文字を書く動作を忘れてますますヘタになっているのである』**

「そや、そや」とまたまた賛同。おまけに漢字忘れで、たびたび行き詰っては、携帯で確認する有様である。まあ、漢字は読めたらええです。それでも、手書きで書かなきゃいけない場面は多々あり、サラサラすらすらときれいな字が書きたい。ではどんな字が希望なのかというと、別に美文字でなくても、硬筆手本のような上手な字じゃなくてもいい。そんなだいそれたことは言わない。せめてもう少し揃った読みやすい字、**“大人っぽい字“**が書きたいなぁ。

じゃ、どうすれば字はうまくなるのか？という内容も載っている。結局は、字や文章のバランスを見て、ゆっくり丁寧に書くということに尽きるみたい。そりゃぁね、私でもゆっくり書けば、まあ、読める字は書ける。が、なんでもチャチャっと済ませてしまいたい性格に向いていない。字に限らず、早とちりして、フライングして、詰めが甘いこと数知れずである。

**「書家はふだんの字もきれいなのか」**という疑問に関しては、美しい文字というのは書くのにそれなりに時間がかかるので、書家でもふつうは早書きでけっこう乱れているそうだ。ワープロやパソコンのなかった昭和の時代までは、手書きでさらさらときれいに書ける人が多かった。一介の兵隊さんが戦地から送った葉書というのも掲載されているが、文字も文章もうまかったのね。さらに江戸時代までは行書という続け字を筆で書くのが当たり前だったので、楷書基本の私たちには全く読めないことになってしまった。

昔の有名な作家はどんな字で書いていたのか。作家記念館などで飾られているが、現在の作家は、原稿もパソコン入力が増えて、展示できるものがなく、わざわざ、書き出しだけ手書きにしてもらって並べるところも出てきたそうな。著名スポーツ選手、歴代大臣の自筆なども写真が載っている。やっぱり、政治家なら、さらさらと筆でカッコよく、威厳のある字を書いていただきたいです。

チラシも案内文もパソコン文字全盛の今、あえて手書きで発行している地元「TSUTAYA寝屋川駅前店」の情報誌が載っている。イラストの合間に虫眼鏡で見ないと読めないような字でぎっしりと書きこまれているのに、全体的にビジュアルで美しく、かつ読めるという究極の手書きである。

私も今後はゆっくり丁寧に書いていこう。

**『字が汚い！』　　新保信長　　文芸春秋**